

第2回 令和6年能登半島地震道路復旧技術検討委員会の概要と意見

□開催日時

令和6年3月27日（水）14:00～16:00

□場所

金沢河川国道事務所 2階 会議室
(Web併用)

□委員名簿

氏名	所属・役職	出席
川村 國夫 (委員長)	金沢工業大学 金沢工大附置研究所 地域防災環境科学研究所 教授	○
渡邊 一弘	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 道路基盤研究室長	○
白戸 真大	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室長	○
西田 秀明	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室長	○ (Web)
上仙 靖	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 道路地震防災研究室長	○ (Web)
浅井 健一	土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員(特命事項担当)	○
佐々木 哲也	土木研究所 地質・地盤研究グループ 土質・振動チーム 上席研究員	○
大住 道生	土木研究所 構造物モニタリング研究センター (CAESAR) 橋梁構造研究グループ 上席研究員	○ (Web)
日下 敦	土木研究所 道路技術研究グループ トンネルチーム 上席研究員	○

(敬称略、順不同)

□対象事業

・能越自動車道 及び 国道249号沿岸部

□議事概要（各委員からの意見）

【令和6年能登半島地震における当面の復旧に向けた施工方針・留意点 骨子（案）】

- ・緊急復旧、応急復旧、本復旧を進めて行く中で、手戻りが生じないように検討を進めてほしい。
- ・海岸隆起を活用した復旧を行う場合、自然や生態系に配慮との記載があるが、例えば、自然環境に対してはどのような対応ができるのか、十分に検討をする必要がある。
- ・能登半島は国定公園でもあり、自然環境など、関係省庁との調整が必要な事項については、早期復旧のため早めの対応をお願いしたい。
- ・盛土崩壊箇所の復旧について、まず弱部を除去することが必要。地山が深いところでは、のり尻での押さえ盛土を確実に行う必要がある。
- ・地下水や沢筋における排水対策を十分に行うことも必要。
- ・また、トンネル復旧においては、検討から開通後までの各段階ごとにモニタリングを行うことも必要。
- ・被災箇所では、復旧位置の検討に併せて、構造の見直しも考える必要がある。
- ・復旧に係る検討の進め方については、熊本地震での対応などを参考にすると良い。

【今後の予定】

- ・新たに実務レベルでの対応をワーキンググループという形で、分野ごとに個別課題に対する検討の場を設置し、早期復旧に向けた諸課題を速やかに解決できるよう体制を強化することについて了承。

□結論

・当面の復旧にあたっての施工方針・留意点の骨子(案)について了承された。